

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801875		
法人名	有限会社 涼風		
事業所名	グループホーム ウイング	2F	
所在地	福岡市東区原田4丁目16-1		
自己評価作成日	平成24年9月14日	評価結果確定日	平成24年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市博多区元町1-6-16		
訪問調査日	平成24年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>基本理念に基づきながら、個人を尊重すべく、個別支援を行ったり、安心安全に、生きがいのある生活を送っていただけるように、スタッフ一同、介護に対する技術向上に努めている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「心やさしく おだやかに のんびりと自分らしく」を掲げ、基本方針では「地域とのふれあいを大切にします」と掲示し、毎朝申し送り後に入居者と共に唱和を行い、常に念頭に入れ業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に新聞やダンボールを出したり、秋祭りや敬老会等の行事に自治会や老人会また地域の方々を招待している。また、中学生の職場体験も受け入れるようにしている。散歩や買い物等に出掛けたときはこちらから挨拶するよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行ったり、老人会や民生委員の方々からの相談を聞いて対応するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の状況報告や活動報告を行い、災害時の協力体制や地域高齢者にまつわる質疑応答を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にはいきいきセンターふくおかから参加して頂いたり、市町村の生活保護課や介護保険課の担当者とはまめに連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的なケアの中で、身体拘束となる言葉かけや行動制限、鍵の施錠などが行われていないか、フロア会議で適宜話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待などの新聞記事を切り抜き、全職員に回覧してもらっている。 また、外部の研修に参加してもらい理解を深めてもらっている。日頃より職員同士で注意し合える関係作りにも努めている。		

自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、資料をレポートと一緒に提出してもらい、休憩室等で閲覧できるようにしている。また、現在成年後見制度を利用されている方が居る為、その都度経過を全体会議などで報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面と口頭で説明を行い、家族・利用者と話し合う時間を十分とって、不安の解消に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族が、出席し外部に意見を伝える機会を作っている。利用者や家族の意見に耳を傾け、苦情、不満があった場合は全職員で話し合いを行い対応するよう心がけている。また 相談、苦情受けの窓口を、重要事項説明書とホーム玄関に掲示している		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議とフロア会議を実施し、職員の提案や意見を聞いている。また管理者が個別面談を行いゆっくりと話が出来る時間を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に意見や提案を聞きながら常に施設にとって良い方向に反映させるように就業環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接に関しては、希望があれば全員対応しており、年齢や性別の制限は設けていない。経験や趣味を生かして働いていただけるよう配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加して理解を深めてもらっている。また、会議の中で言葉遣いや接し方、認知症に対する対応などを見つめなおす機会を作っている。		

自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、新人研修の参加と段階に応じて行っている。 資格を持っていない職員にはヘルパー2級の資格を取得するよう勧め勤務等も配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、意見交換を行っている。 また、空室時や満室時は近隣のグループホームと連携を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を把握すると共に、ご本人のお話を傾聴したり、コミュニケーションをすることにより、安心できる信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前の段階で、家族と話し合い、ホームでの生活内容を細かく説明すると共に、要望などにも耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族とのカンファレンスを行い、必要な支援を見極め、入所後細かく様子観察を行いながら、アセスメントを重ねケアプランに反映していく。また体験入所等を行い、ご家族、ご本人の不安を解消するべく、支援したり対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に、日常のお手伝いなどをお願いして、役割のある、充実した生活をしていただけるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にイベントやお誕生日会の写真を郵送したり、来苑の機会を持っていただくようお願いしたり、ご家族と密着し支援が出来るように努めている。また面会に来苑された際は、居室にて、ゆっくり談話して頂けるよう配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解をいただいている範囲で、なじみの方やご友人の連絡受け入れ支援を行っており、正月やお盆には、帰省の為の、外出や外泊をご家族に協力していただいている。		

自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操、手伝いなど、それぞれの性格や症状に合わせ、工夫しながら、関わりを持ち、支え合えるよう支援をしている。また状態によっては職員が間に入るなどして、会話が進むように対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した関係者からの連絡や相談があった場合は様子を聞いたり、訪問を行ったりし相談支援をしている。退所先よりケアに対して問い合わせ等があった時は、経過やケアの方法を伝達している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などで、希望の把握に努め、得た情報はケアカンファレンスを行い、職員全体で共有し、ケアプランの作成にも反映している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや、日常の会話より情報収集を行い、個人カルテに記録をすることで、情報の共有をする。また居室内に今まで使っていた家具や仏壇を置いたりして、なじみの空間を確保している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、些細な言動も個人カルテに残し、介護支援計画に繋げ、身心の状態は、個々、日々違うので、短期長期で様子観察に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医療機関の意見を聞きながら、毎月行っているケアカンファレンスで職員全員で検討し、介護支援計画に繋げている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人カルテや日誌、申し送りノート等を記入し職員間で情報を共有する。話し合いや申し送りを実施し、より良い実践や介護計画の見直しを行っている。		

自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に沿って、訪問マッサージ、訪問理美容、訪問リハビリ等を利用し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の実施や行事、秋祭り、中学校の職場体験学習などの交流で楽しめるように支援している。また地域で行われている二か月に1度の廃品回収に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回以上のももち浜クリニックの往診や体調不良時24時間のサポート体制を整え、前田歯科の往診や口腔ケアも利用している。その他に本人や家族の希望に応じた、医療機関との連携も行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきがあれば、個人カルテに記録し、変化があれば、ももち浜クリニック24時間サポートにて、看護師の方いつでも連絡が取れ、指示をもらえるように、体制化されている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーや情報提供書を作成し、医療機関との連携をはかり、情報交換や関係作りを行っている。退院時には、カンファレンスを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所見学時に終末期重度化について説明を行っている。重度化した場合には、ホームDrやご家族と話し合いを重ね、個人の症状にあった医療機関や施設等への、転移を援助し、ご本人が安心できる方策を検討し支援している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は救命救急講習に参加したり、知識を向上する為に、内部、外部の研修を定期的を受けている。また緊急マニュアルも読了している。		

自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、外部からの指導に基づき、消防訓練を行ったり、水害対策の内部研修を行ったりし、全職員で安全対策に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについて、外部研修を受けたり、社内情報の流出には、万全の注意を心掛け、入居者の尊厳を尊重した対応を行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、希望を伺い自己決定ができるような働き掛けをし、共同生活の中で、出来るだけ希望にそえるように支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースを優先とし、出来る限り希望に沿って、外気浴や散歩の方法、読書やテレビ視聴、レクリエーション等、個人にあった時間が過ごせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみの介助や、外出時には、共に服選びをするなど、ご本人の好みを最優先にすることを心掛けている。また2ヶ月に1度、訪問理美容を利用する等の支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れ、職員手作りの料理を提供し、盛り付けのお手伝いをお願いしたり、後片づけを職員と共に行うなど、和気あいあいと食事が楽しい時間になるよう支援している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態に合わせた量、バランス、調理法に心掛け、健康が保てるよう提供しており、摂取量は毎食チェックしている。水分補給については、食事の他に、10時、3時の飲茶、夜間はペットボトルを準備している。		

自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの促しや介助、夜間の義歯洗浄を行い、週1回、訪問歯科により口腔ケアを受け、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要な方は、時間を決めトイレ誘導をしたり、排泄表の記入をし排泄パターンを把握するよう努め、いつまでも自立した排泄が出来るように支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をしたり、水分補給、バランスの良い食事の提供などに配慮しており、申し送りなどで排泄パターンを把握している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に3回の入浴を行っており、在宅と同様入浴を楽しめるように配慮している。ご本人の希望があれば1階と入浴日が異なる為、1階にて入浴を行っている。発汗の状態を様子観察し、シャワー浴は常時行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの個室で自由に過ごして頂いており、気持ちよく安眠できるよう、環境を整えて、適正な室温や照明、夜間巡視等の支援をしている。特に夜勤者は良眠して頂くことに全力を注いでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の症状、服薬については、薬状にて副作用や用法について理解を深め、服薬確認、服薬後の変化の観察を行っている。毎日の申し送りや日誌にて、全職員が症状の変化を把握している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活面での役割分担や、外部の行事参加での外出、ドライブ、ショッピング、外食等、気分転換が出来るよう支援している。また、野菜を育てたり、花の水やり等の日常の取り組みも行っている。		



自己・外部評価表(GHウイング2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態や希望にあった散歩を行ったり、曜日を決め、買い物に出るなどの支援をしている。時として、ご家族に協力を依頼する事もある。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、外出や買い物の時は、ご本人が自由に使えるように準備し、支払う事が出来るように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族と話し合っ、電話の取次ぎ等の支援したり、希望があれば、年賀状作成などの見守りを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心掛け、壁面飾りや生け花等に、季節感を取り入れている。温度計、加湿器、芳香剤等を設置し快適な空間作りを行っており、テレビや音楽の音量にも入居者が、不快感を感じ無いうよう、配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は症状別でなく、気の合った方たちが楽しく食事ができるよう配慮し、テレビ視聴用のソファやゲームの出来るテーブルを設置し、くつろげる空間作りを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前まで使っておられた家具類や写真、装飾品、仏壇など慣れ親しんだ物に囲まれ、安心して暮らせるように、位置は使いやすく、危険の無いよう工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体がバリアフリーで、各所に手すりを設置し、歩行時に危険がないように、配慮している。夜間は安全確保の為、保安灯を使用している。		